

## 令和7年度第2回羽島市国民健康保険運営協議会（会議要旨）

日 時	令和8年2月10日（火） 午後1時30分～午後2時40分
場 所	羽島市役所本庁舎4階 第1委員会室
出席者	<p>（委員）出席者9名 石川かおり委員、藤木美保子委員、田中吉政委員、河合悟委員、小川徹委員、浅野牧美委員、加藤静恵委員、今井田朋美委員、近藤達彦委員</p> <p>（事務局）出席者10名 松井市長、園部市民部長、北島収納課長、河口収納課課長補佐、國井健幸福祉部子育て・健幸課健幸担当課長、佐藤保険年金課長、清水保険年金課主幹、棚橋保険年金課課長補佐、波多野保険年金課国民健康保険税係長、中野保険年金課保健事業係長</p>
内 容	<p>1 市長挨拶</p> <p>2 会議録署名委員の指名 小川委員、浅野委員</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 報第1号「羽島市国民健康保険税条例の一部を改正する条例（案）」について</p> <p>(2) 報第2号「令和8年度羽島市国民健康保険特別会計予算（案）」について</p> <p>(3) その他</p> <p>&lt;質疑応答等&gt;</p> <p>（委員） 基金の利用について県や国からの指針はあるのか。他市町の基金はどのくらいか拵んでいるか。また、1人当たりの順位は。</p> <p>（事務局） 現状基金の取り扱いについては各市町村で取り決めをしている。6年度決算では県内21市で約2,500万円から10億円以内の範囲で持っている状況。1人当たりでは、当市は約2万5,000円であり、県内で15番目に高い。</p> <p>（委員） 子ども・子育て支援金のシステム改修にどのくらいお金がかかるか。国から補助が出るのか。</p> <p>（事務局） 金額は約900万である。全額国から補助が出る見込みである。</p> <p>（委員） 特定健診の受診率が良くないことに対し、対策及び対応はしているか。</p> <p>（事務局） 自分ごとと捉えていただけるような受診券のイラスト化など取り組んでいる。他市の状況を見つつ色々検討していきたい。</p>

- (委員) その取り組みの成果はでているのか。
- (事務局) 6年度に病気のイラスト化を行った結果、5年度の受診率38.4%に対し、6年度の受診率は39.8%と増加している。7年度についても、11月分までで6年度より受診率が上がっている。
- (委員) 受診券をなくした場合再発行は可能なのか。その場合、どこかに明記しておくべきではないか。
- (事務局) 再発行可能である。ホームページやLINE、SMSでの受診勧奨の際、受診券がない方は保険年金課にご連絡いただくよう案内している。
- (委員) 受診券がないというのはなくした人を含むのか、届いていない人に対する意味か曖昧である。ないという人がいた場合には市役所に届け出するよう案内してよいのか。
- (事務局) そのとおりである。
- (委員) 受診券を再発行し、2回受診しようとする方は、市役所側で管理、対応するという認識でよいか。
- (事務局) 再発行した方のチェック管理はできているので、そのようをお願いしたい。
- (委員) 特定健診、歯科健診を受けた場合の健幸ポイントを増やし、受診率をあげるという方法はどうか。
- (事務局) 来年度は引き続き1ポイントと考えている。
- (委員) 受診者の少ない年代、各年代の受診率はどうなっているか。
- (事務局) 40代、50代の受診率が低く、6年度の受診率は40代が21.9%、50代が29.2%、60代が42.7%、70代が52.1%である。
- (委員) 40代、50代の受診率が少ないのは医療機関に行ける時間が原因だと思う。医療機関に行けるような対策はあるか。
- (事務局) 医療機関により健診受付日時が異なることから、現状は個別の案内はしていない。受診されたい方ご自身でお申し込みいただく際にご確認願えればという状況である。